

令和 8 年度第 1 回奈良市アートプロジェクト実行委員会 会議録

開催日時	令和 8 年 6 月 5 日（金）13 時から 13 時 50 分まで	
開催場所	奈良市役所 中央棟 5 階 秘書課 応接室（キャンベラの間）	
次第	1 開会 2 委員長挨拶 3 議事 (1) 令和 7 年度事業報告について (2) 令和 7 年度事業決算について (3) 令和 8 年度事業計画（案）について (4) 令和 8 年度予算（案）について 4 閉会	
出席者	委員	仲川委員長、佐々木副委員長、萩原委員、青木委員、垣見委員【計 5 人出席】
	事務局	谷田事務局長（奈良市市民部長）、長谷川事務局次長（奈良市市民部次長）吉川事務長（奈良市文化振興課長）、荒益、藤井、一柳、仲川、久保、桑理（事務局・文化振興課）
開催形態	公開（傍聴人なし）	
決定事項	●全議案について 承認された。	
担当課	奈良市アートプロジェクト実行委員会事務局（市民部文化振興課）	

議事の内容

1 開会
2 委員長挨拶
3 議事 (1) 令和 7 年度事業報告について ・ 前回委員会時、未実施であった「古都祝奈良トークセッション」について追加報告を別紙資料 1 のとおり行う。⇒第 1 号議案承認 (2) 令和 7 年度事業決算について ・ 予算 5,500 千円のところ支出は 5,217 千円。差額 283,044 円については奈良市へ返納。会計処理について、4 月 27 日に監事の青木幸子氏による監査を実施。適正処理を確認。 ⇒第 2 号議案承認。 (3) 令和 8 年度事業計画（案）について ・ 資料 3 のとおり「事業計画（案）」を説明。⇒第 3 号議案 承認。 (4) 令和 8 年度予算（案）について ・ 収入は、市負担金収入が 20,670 千円。支出は事業費として横断プログラム経費 15,670 千円、美術経費 3,306

千 円、広報事業 1,374 千円、事務管理費 320 千円 合計 20,670 千円を計画。⇒第 4 号議案 承認。

(委員からの意見)

- ・東アジア国際シンポジウムを計画されているとのこと。日中韓の動向もあると思うが、来日などの調整はどうか？
- 文化庁や過去に東アジア文化都市に選定された都市へ問い合わせたところ、今年度の交流実施は難しいとの回答もあったが、東アジア文化都市 10 周年であるので、お声かけはさせていただこうと計画している。
- ・文化庁文化芸術振興費補助金（文化芸術創造拠点形成事業）について。
- 応募額 1,877 万 8 千円、採択額 1,605 万 4 千円、約 8 割 5 分採択であった。約 8,900 千円をアートプロジェクト経費に充てている。
- ・奈良の条里制が他都市でも残っている。奈良に都があった時代に全国に波及していった。奈良時代、奈良という名前やそういうものに注目し、展開する視点も面白いと思った。
- ・「古都祝奈良の時空旅行」の会場で東大寺観音院が計画されている。観音院は東大寺の別当も務めた上司海雲が文化交流の場（サロン）を開いた場所かと思う。サロンに集っていたアーティストなどとキムスージャの時空を超えた交流のようなものも時空旅行企画の視点としてもてば面白いと思う。
- ・「古都祝奈良の学校」ので作成された教科書は、アートプロジェクトの教科書というよりも、まちづくりや今後の奈良の展開全体にヒントになるようなものだと思う。できるだけいろいろなところで配布してほしい。
- アートプロジェクトで関係のできた東京藝術大学大学院での配布や、京都芸術大学にて授業で使ってもらっている。また、奈良市立図書館、奈良県立図書情報館、国立国会図書館へも納本している。
- ・子どもたちにとって本物に触れる機会が大切かと思う。実際に触ってみたり、自身で歩いて足裏で感じてみたりすることは、感性を鍛えられる大きな機会であり、このならまちの中にいろいろなものが、仕込まれているということは、とても面白いと思った。
- ・しみんだよりで特集を組むなど、多くの方に知ってもらえる機会を設けるように。
- ・アーツカウンシル設立の動きは奈良県ではあるのか。
- 奈良県で特に動きは聞いていない。
- ・ならまちセンターを文化創造拠点とする動きもあったかと思う。例えばそこに、アーツカウンシルを入れ、独立性の強い機関で専門の職員を採用する。10 年の節目もあり、奈良市にふさわしいかたちのものを一度検討してはどうか。試行的な試みでもいい。
- 現状、奈良市総合財団でならまちセンター内にアートコーディネーターを 2 人嘱託職員として採用している。今年度、第 2 次文化振興計画の見直し年である。市民モニターの方にアンケート調査する機会もあるかと思うので、検討していきたい。
- ・アーツカウンシルについて、奈良らしいものをつくる観点から、奈良の伝統的な社寺に協力してもらったり、奈良市文化振興計画では、市民文化と都市文化の二元制をとっていることから、その中間的組織として位置づけることがふさわしいかと思う。
- ・ここ 10 年で大きな出来事といえば、新型コロナウイルス感染症の流行かと思う。いろいろな出来事を経験して、アートプロジェクトを 10 周年まで続けてきた、この厳しい世界で何ができるかという視点を持ち、今後も継続していければ、それは世界に発信できるものなのかと思う。

4 閉会